



日本文学（近代文学）史講義

第6回 自然主義の確立！

1

リアルが大好き日本！

世界文学の評価では、ロマンチズム重視傾向

日本文学では、リアリズム重視

何故か

自然主義（明治末期～大正初期）の影響でかい

next

2

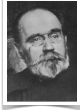
フランスから来た自然主義

エミール・ゾラ

(Émile Zola, 1840年4月2日 - 1902年9月29日)

ゾラの目的 文学で人間をリアルに描写したい

ゾラの方法 人間を成立させる条件を描く



①、遺伝（どういった親や家系か）

②、環境（どういった社会や家庭か）

③、本能（生まれ持った資質）

ゾライズム＝自然主義 の影響は今もある

next

3

前期自然主義

（通説）

基本的にゾライズムの影響下にあり、その可能性は、
日本的自然主義への変化によって消された

①小杉天外「はつ姿」②永井荷風「地獄の花」

③国木田独歩「武蔵野」

4

ゾラの実作・方法

『ルゴン・マッカール叢書』

ルゴンとマッカールとの二人の血をうけたルゴン家の人々（一九七三年）が
どういう運命を経てどうなって行ったか、というふうに、ルゴン家三代の
人々の性格と運命とを遺伝の面から追求した

方法

自然の事実を観察し、「真実」を描くために、あらゆる美化を否定する。
チャールズ・ダーウィンの進化論やクロード・ベルナール著『実験医学序説』
の影響を受け、実験的展開を持つ小説のなかに、自然とその法則の作用、遺
伝と社会環境の因果律の影響下にある人間を描き見出そうとする。

5

前期自然主義作家①

小杉 天外（こすぎ てんがい、慶応元年9月19日（1865年11月7日） - 昭和27年（1952年）9月1日）は、小説家。出羽国仙北郡六郷村（現・秋田県仙北郡美郷町）生まれ。本名・為蔵。

はじめ政治家を志したが文字に転向し、斎藤緑雨に師事、風刺的政治小説を書く。1900年の『はつ家』、1902年の『はやり男』は、人妻の姦通などを描いて初期ゾライズム、自然主義のさがけとされたが、1903年、尾崎紅葉亡きあと読売新聞に連載した青春小説『魔風恋風』がヒットし、流行作家となり『コブシ』『長者屋』などを書くが、1907年以降大衆作家として文壇の中心から遠ざかる。1948年日本芸術院会員、長命を保った。

『魔風恋風』は戦後岩波文庫に入り、いったん絶版となったが、本田和子が『女学生の系譜』（1993）で論じてより、明治の女学生を論じる際の定番テキストとなった

6

「魔風恋風」の先駆性

茅盾の女学生制度を中心に、その影響者である新田明徳の子爵を模写し、芳江の貴族の貴族生を、初めに野心をもちつゝの貴族家娘井など当時の男女学生の典型的風貌と生面を描きつつ、恋愛、育信、死など劇的事件をかませている。明治36年『読売新聞』に掲載され、新聞小説界に画期的な好評を得た天外のもっとも有名な作品。

この作品の主人公、新田明徳は、大正時代の女学生のイメージとなったキャラクターである。

当然、漫画『ハイカラさんが通る』とかのモデルでもある。

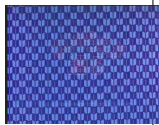
この作品は、自転車に乗って登校したばかりに、だんだんひどい目に逢っていく、

という悲しい小説でもある(笑)

ミス(ミス)【お】

Stateの周です。昔は「シス」とも言った。

1) 昔の女学生が、男性が苦手なために



7

前期自然主義作家②

永井 荷風、1879年（明治12年）12月3日 - 1959年（昭和34年）4月30日）は、日本の小説家である。耽美的な作風で明治から昭和にかけて活躍した。本名は永井壯吉。号は断腸亭主人、金阜山人。

前期荷風 自然主義（ゾライズムの継承者）

後期荷風 反自然主義＝耽美派のリーダー



8

『地獄の花』

『地獄の花』は、明治35年、荷風（1879-1959）がゾライズムの影響を受けた時期の作品で、これによって新進作家として認められた。理想の人生の実現のためには人間の動物的側面を明らかにせねばならぬという立場から、教育家の醜態な裏面生活や、富豪の妻の不倫などを暴露して、敢然と社会への挑戦を試みた青年荷風の激しい意気込みが感じられる。

『あめりか物語』『フランス物語』

しかし、当局がこの作品を嫌った最大の理由は、あまりにも率直に表明された、祖国への嫌悪にあると思う。近代国家「日本」の理想は、国民ひとりひとりの理想でなければならない。祖国を思わない国民など、あってはならない存在なのだ。にもかかわらず、本書の主人公は、「どうしても日本に帰りたい、巴里に留まりたい」と駄々っ子のようにふさぎこみ、「自分は日本の国家が、芸術を虐待し、恋愛を罪悪視することを見聞しても、最早や要なき憤怒を感じまい」、なぜなら「世界にはフランスという国がある」と聞き直る。実に毒に満ちた呪詛である。

9

前期自然主義作家③

国木田 独步（くにきだ ひとり、男性、明治4年7月

15日（1871年8月30日） - 明治41年（1908年）6月

23日）は、日本の小説家、詩人、ジャーナリスト、

編集者。千葉県誕生。



日清戦争従軍記者・招待晩餐会で、キリスト教婦人矯風会の幹事 佐々城豊寿の娘信子と知りあう。熱烈な恋に落ちるが、信子の両親から猛反対を受けてしまう。信子は、母豊寿から監禁されたり他の男との結婚を強要されたという。独歩は、信子との生活を夢見て単身で北海道に渡り、釧路の田園地帯に土地の購入計画をする。「空知川」はこのことを綴った短編である。

1895年11月、信子を佐々城家から誘当させることに成功し、釧路の結婚で結婚。返子で二人の生活が始まったが、あまりの貧困生活に耐えられず帰郷し両親と同居する。数年信子が失踪し協議離婚となり、強い衝撃を受ける。この断末の一端はのちに有島武郎によって『戒る女』として小説化された

10

武蔵野について



11

自然主義が変わっちゃった！



島崎藤村

『破戒』（明治三九（一九〇六）年）

部落民 ... 遺伝 ... 差別 ... 我



おれも、
花袋さん
みたいな作品
を書くぞ！

田山花袋

『蒲団』（明治四〇（一九〇七）年）

個人的な告白を重視

next

12

藤村『家』

『家』（いえ）は、島崎藤村の長編小説。1910年1月1日から5月4日まで『読売新聞』に「上巻」を連載。

小泉家と橋本家という二つの旧家の没落を、相互の歴史を明らかにし、新時代の「家」と対比して描いた作品。小泉家は藤村の生家である島崎家を、橋本家は藤村の姉が嫁いだ高瀬家をモデルとしており、明治期の家長制度を描写している。自然主義の到達点とされる。

木曾には小泉家と橋本家という二つの旧家が存在する。その家長の小泉吏と橋本達夫は、伝統的な旧家の生き方などに縛られ時代から取り残されつつある。一方、その後を継ぐ橋本正太と、達夫の弟の小泉三吉は、自らが旧家の生れであるという呪縛から逃れられない。

家を助けようとした正太は株に手を出したが失敗し、女性関係にも悩まされ名古屋で没する。三吉は夫婦関係や兄との援助関係に悩みつつも作家として大成し、一家の大黒柱のような存在になっていく。

13

日本の自然主義の特徴

島崎藤村の自然主義の変遷



日本の自然主義を決定づける！

①、社会よりも個人の体験を重視する

②、物語を解決したりしない

③、人や社会に理想を述べたりしない



読者が興味を持つ個人体験とは？



1、共通した私事
性など
2、マイナスな経験
暗い・苦しい

14

この「事件」の理解①

中村光夫「風俗小説論」

『破戒』が発表された翌年に、田山花袋が『蒲団』を書き、更にその翌年には藤村自身が『春』を書きました。

この二年間の文学界の動きは甚だ重大で、ほとんど我国の近代文学にとって宿命的な意味を持っています。一口に云えば、この間に『破戒』と『蒲団』との決闘が行われ、その闘いは少くも同時代の文学に対する世界については、『破戒』の完全な勝利に終わったのです。『春』はこの点から見れば、藤村の花袋に対する降伏状であったわけですね。

花袋の勝利は徹底的であり、且つ無慈悲なものでした。ちょうど敗者の一家尊厳が根絶しにされる晋の戦争のように、『破戒』の系列は作者自身からさえ見捨てられて、文壇からまったく抹殺され、『蒲団』の子孫ばかりが繁栄して文壇の主流を形成した当然の結果、今日では『蒲団』によってつくりあげられた文学の理念から『破戒』を評価するのが、文壇の常識になってしまいました。

15

この事件の理解②

平野謙「明治文学評論史の一齣——『破戒』を繞る問題」

日本自然主義的な正の発展のためには、「破滅」を絶対に不可欠の出発点にほかならなかつた。藤村が刻苦して築きあげたこの礎石の上に、日本自然主義は組成されていくべきであらう。しかし、実際の日本自然主義の歴史からみれば、「破滅」は過激的な一習作としてとせられ、「蒲田」こそ、その発展の最初の実作であるに眺められている」として、破滅当時の「破滅」評を網羅的に探索するとそれへの批判を通して、当時の文学界がそこに「破滅」の持つ社会的抗議と意識上の相克を統一的にとらえることができず、多くが後者が特に注目してその是非を論議しにとどめたと批判した。

16

抑圧された大逆事件

卒德事件

1910年(明治43年)5月25日、信州の社会主義者宮下太吉ら4名による明治天皇暗殺計画が発覚し、逮捕された「信州明科爆弾事件」が起こる。以降、この事件を口実に全ての社会主義者、アナキスト(無政府主義者)に対して取り調べや家宅捜索が行われ、根絶やしにする弾圧を、政府が主導、フレームアップ(政治的でっちあげ)したとされる事件。



自由明科教育強身事能徹實三人の社会主義・無政府主義者の建議・検査が驗り、庶務は26人を明治天皇親裁計画書正にて副託した。松本政務次郎、平沼一郎、大塚隆雄、小松、松村清平、松本政務次郎等正によって、松本のフレームアップがはなれ、例示の通り、公明、明執行がはなれた。平沼は論議者で「動機は信受り」とした。1911年1月18日に死に26人、有期刑2名の判決（論文二名無期刑）。1月24日に卒徒秋、11名が、1月25日に1名（名野大谷）が処刑された。特赦無期刑に留保したは、5人。仮出獄させたは7人。

赤坂事件で有罪となって獄中にいた大杉栄、高橋幸村、柳井彦、山田川は事件の連座を免れたが、数多くの人権を失い、しばらくの間刑務所で洗脳することになった。この事件は文学者たちにも大きな影響を与え、石川啄鳥は事件後ポエム・クオ・ボタの著作、公刊しなかった。

松岡重信は『謀反論』講演で元刑務所長の立場を語り出した。また、秋永が延経で「**天は天は**、**南朝の天子**を暗殺して三朝の神器をうばうといふ北朝の天子ではないか」と発言したことが外郎へも、南北朝正閏論が起った。

17

明治30年代から40年代の パラダイムチェンジ

日清・日露戦争 散文 VS 韻文

国民国家 日本 の完成 言文一致 傍流 文語や方言の抑圧

『蒲団』 VS 『破戒』

大逆事件 個人的世界 ~~社會的世界~~

文学＝「わたし」の追求＝王道

18

自然主義の功罪

① 言文一致を完成させた

方言等新たな差別の問題へ

② 「わたし」の追求を文学の王道にした

「社会」を描くことの欠如という問題へ

③ リアリズム至上主義を推し進めた

ロマン主義の衰退

詩や短歌などの韻文文学の衰退（小説中心へ）

(最近の研究)

自然主義の「家」の偏執は、実は「家」制度
への批判であり、個人的なそれは違う

19

日本のリアリズム＝小説至上主義の完成

藤村 花袋 泡鳴 白鳥 (秋声) らは、みんな

ロマン主義的な詩人が文学的スタート

(例) 『若菜集』

『千曲川のスケッチ』（散文の習作）

『破戒』

リアリズムの言文一致散文

~~ロマンチズム的文語韻文~~

20